

科目名	労働法Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			総合政策学部	□必修 ■選択
英文表記	Labour LawⅠ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
			開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
ふりがな	きむら きよし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	木村 澄	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	労働者の保護と労働条件の改善について労働事件をとおして法的に学びます。			
到達目標	労働法の基礎的な用語を理解し、また様々な制度を概説できるようになること。そして、それらを用いて労働に関する諸問題を読み解き、自分の考えを述べる能力を身につけることを目標とします。			
授業概要	労働者にとって労働法とのかかわりは日々のことです。働くということは、労働者の生活全体につながりをもつことから、良い労働条件は働きがいや生活水準を向上させ、ひいては国民全体の経済的・文化的水準を向上させます。労働法は、労働者の生活の向上を目的とする制度的手段を提供する法律です。本講では、労働法がなぜ生まれ、どのような性格と仕組みの中でいかに機能しているかを判例を踏まえて学びます。			
授業計画				
第1回	労働法とは： 小林多喜二『蟹工船』を観る			
第2回	労働法の生成： 労働法はいかに誕生したか			
第3回	「労働基本権」について： 日本国憲法第27条・第28条			
第4回	個別的労働関係の構造： 職場に適用されるルール			
第5回	就業規則とは： 法的性質を考える			
第6回	就業規則について： 使用者の義務、不利益変更の拘束力： 山本茂実『あゝ野麦峠』（大竹しのぶ版）を観る			
第7回	労働契約の成立： 採用と労働条件について			
第8回	「均等待遇の原則」と「男女同一賃金の原則」			
第9回	賃金に関する法規制(1) 「賃金」とは			
第10回	賃金に関する法規制(2) 「賃金支払の5原則」			
第11回	労働時間の管理(1)： 労働時間の概念、法定労働時間： 田島隆『ダンダリン 労働基準監督官』を観る①			
第12回	労働時間の管理(2)： 変形労働時間制			
第13回	労働時間の管理(3)： 休憩時間、休日： 田島隆『ダンダリン 労働基準監督官』を観る②			
第14回	労働時間の管理(4)： 時間外労働と割増賃金			
第15回	男女雇用機会均等法 ささまざまな場面での法規制とセクシュアル・ハラスメント			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業前に前の回で配付したプリントとノートに必ず目を通しておいてください。 2. 理解度を確認する小テスト(クイズ)を2回実施します。復習をしっかりと行ってください。 3. 新聞やテレビのニュースで労働問題に関する出来事に関心を持ってください。			
履修条件 受講のルール	この「労働法Ⅰ」の単位修得の後、後期の「労働法Ⅱ」もあわせて履修することを強く推奨します。また、前期の「社会政策Ⅰ」、後期の「社会政策Ⅱ」の履修も強く推奨します。「労働法」と「社会政策」は、「社会法」と呼ばれる同じグループの学問です。			
テキスト	講義の際にレジュメと資料を配付します。			
参考文献・資料	菅野和夫『労働法』、「労働判例百選」有斐閣、小林多喜二『蟹工船』、山本茂実『あゝ野麦峠』、山崎豊子『沈まぬ太陽』、日本テレビ製作「ダンダリン 労働基準監督官」、日本テレビ製作「ハケン品格」他			
成績評価の方法	【定期試験(60%)、小テスト(25%)、主体的学びの姿勢(15%)】			

	<p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テスト（クイズ）を実施し、直後にフィードバック（答え合わせ）を行います。</li> <li>・レポート課題がある場合は、授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。</li> </ul> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は定期試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週火曜日 3 時間目（13：00～14：30）・木曜日 3 時間目（13：00～14：30）</p> <p>※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。</p>
成績評価基準	<p>秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）</p>
学生へのメッセージ	<p>皆さんの将来の職業生活において必ず役に立つ科目です。</p> <p>「わかる・できるようになる」に向けて、「主体的な学び」の姿勢を大切にしましょう。</p>